

牧野スカラシップ第9期生の遠山大輔さんが、今年5月に姉妹都市のミネソタ州オマハ市にあるネブラスカ州立大学オマハ校（UNO）を卒業されました。この4年間のUNOでの思い出を寄稿して頂きました。

2014年8月～2018年5月の約4年間、牧野スカラシップ制度を活用して、ネブラスカ州立大学オマハ校に留学しました。アメリカに行ったことはありませんでしたが、元々ジャズやバスケットボールなどのアメリカの文化に興味がありました。そのため、アメリカについてもっと詳しく知ると共に、英語力を向上させるために留学を決意しました。

授業ではプレゼンテーションやレポート、そしてディスカッション等の課題が出る事が多かったです。留学した当初は、あまり英語が喋れず、また、プレゼンやディスカッション等に慣れていなかったため、毎日大変でした。しかし、大学の友人や姉妹都市協会の皆様のおかげで、次第にオマハでの生活に慣れ、授業にもついていけるようになりました。その結果、授業を通して、経営の知識だけでなく、英語を使って積極的に自分の意見を発信する方法を学ぶことができました。

勉強の他には、ボランティア活動にも多く参加しました。具体的には、リサイクルセンターや美術館、牧場など、様々な場所でボランティアをしました。この経験を通して、大学の友達だけではなく、様々な立場の人とコミュニケーションを取ることができました。また、オマハ市のリサイクルセンターで2か月間ボランティアをした際には、基本的な接客技術やパソコンを分解してリサイクルする方法などを学ぶことができました。

大学卒業後は、アメリカを離れ、日本の会社で働いています。しかし、今の会社では海外の顧客と取引する機会があるため、アメリカでの大学4年間を通して得た経験や英語力は、働く上で本当に役に立っています。高校生の時にアメリカ留学を決意して、本当に良かったです。



事業報告

「在外日本語学習者の訪日事業

～ワルシャワ日本語学校サマースクール～

去る7月25日（水）から7月30日（月）までポーランド・ワルシャワ日本語学校の学生9名と教頭が静岡市を訪問しました。7月27日（金）には静岡市文化財課職員の立ち合いのもと、国指定史跡「賤機山古墳」を見学し、賤機山古墳の石室に納められている石棺の歴史や古墳内の構造について日本語で説明を受けたり、静岡市文化財資料館で実際に賤機山古墳の出土品を見せていただきました。また、徳川家に関する資料を読んだり、火縄銃を実際に持ち、重さを実感する体験もしました。静岡浅間神社では、初めてお参りをする生徒に、教頭がお参りの作法を説明し、それに従い学生も手と口を清めて参拝しました。皆、お守りやおみくじにとっても興味があった様子で、どんなご利益があるのかたずねたりたくさんあるお守り一つ一つを手に取り、家族や友人のために選んでいました。一行は日本人家庭にホームステイをしながら、大学生と交流したり市内の国際交流団体のイベントに参加し、6日間の滞在を終えて静岡市を後にしました。

